

令和元年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：山口県教育委員会

1. 事業の実績

(1) 事業目的

幼稚園教諭免許状認定に係る講習を開催することで、幼稚園教諭の一種免許状所有者の割合の増加を図り、幼稚園教諭の資質能力の向上及び幼児教育の質の向上を目指す。

(2) 事業概要

幼稚園教諭免許状の上進のための免許法認定講習を開設することで、一種免許状の取得機会を拡大し、幼稚園教諭の資質能力の向上を図った。

開設した免許法認定講習は、以下の5科目である。

開設科目名	講習期間	講習会場	定員
保育内容指導法（表現）	7月30日～31日	セントコア山口	30人
幼児心理学	8月1日～2日	KKR山口あさくら	30人
保育カウンセリング	8月5日～6日	防長苑	30人
保育内容指導法（環境）	8月21日～22日	山口大学	30人
保育内容指導法（言葉）	8月27日～28日	山口大学	30人

(3) 成果（事業の実績の説明）

① 受講者数

受講者は、実数62人、延べ179人であった。開設科目別、受講講座数別、年齢別、所属別、経験年数別の人数は、以下のとおりであった。

開設科目名	講習期間	申込人数	受講人数
保育内容指導法（表現）	7月30日～31日	27人	27人
幼児心理学	8月1日～2日	35人	33人
保育カウンセリング	8月5日～6日	43人	43人
保育内容指導法（環境）	8月21日～22日	43人	43人
保育内容指導法（言葉）	8月27日～28日	33人	33人

受講講座数別	年齢別
1 講座受講・・・18人 2 講座受講・・・13人 3 講座受講・・・5人 4 講座受講・・・10人 5 講座受講・・・16人	20代・・・3人 30代・・・53人 40代・・・63人 50代・・・53人 60代以上・・・3人 無回答・・・4人
所属別	経験年数別
県内公立園・・・2人 県内私立園・・・175人 県外・・・2人 (熊本県、私立)	1～5年・・・2人 6～10年・・・18人 10～15年・・・46人 15～20年・・・38人 20年以上・・・70人 無回答・・・5人

② 一種免許状に上進した教員数

今年度修得できる単位は最大6単位であり、上進に必要な10単位に満たないため、一種免許状に上進した教員は0人であった。今年度、5講座または4講座を受講している教員は、来年度の上進が見込まれる。

③ 講座開設及び受講者募集に当たっての工夫

- ・5月中旬に「令和元年度山口県教育委員会免許法認定講習の実施について(通知)」を県内全ての幼稚園、認定こども園に送付し、周知を図った。また、6月中旬に「令和元年度山口県教育委員会免許法認定講習実施要項」を送付するとともに、山口県教育委員会のホームページに掲載した。
- ・公益財団法人山口県私立幼稚園協会事務局と連携し、私立幼稚園、私立認定こども園に免許法認定講習の概要及び申込方法等を周知し、受講促進を図った。
- ・受講手続きは私立幼稚園を所管する県総務部学事文書課と連携して行い、個別の問い合わせに対応した。
- ・山口大学教育学部幼児教育担当教授と協議を行い、開設科目や開催時期を検討した。
- ・特別支援教育推進室が毎年開設している特別支援教育に関する免許法認定講習と併せ、「山口県教育委員会免許法認定講習」として実施した。認定申請や実施要項の作成、講習当日の運営等について情報を得ることで、滞りなく実施することができた。

④ 受講者の反応

- ・「日常の保育ですぐに実践できそうな学びを得ることができた」「新しい情報を得ることができ、保育の質の向上につながると思う」「自分自身のスキルアップ、また他の職員への指導にも生かされると思う」「講習を通してたくさんの方と出会い、共に学べたことは新鮮で楽しかった」等の意見から、受講者が講習内容に満足しており、幼稚園教諭としての資質能力の向上につながっていることがうかがえる。
- ・複数の講座を受講した教員が多く、上進に対して意欲的である。また、計画的に単位を修得しようと考えている教員からは、「今後も続けてほしい」「受講希望者が多いので、参加しやすい環境が続けばよいと思う」「講座の開設状況について早めに知りたい」等、数年先までの見通しを求める意見が多くあった。

⑤ 検討委員会の意見

- ・免許法認定講習は、教諭が専門性を自覚するよい機会である。保育の質の向上には研修が一番大切である。専門性をもつ者として、プライドをもって取り組めるとよい。
- ・経験年数10年の教員は子育て世代であり、免許更新を行わずに退職する者も多い。更新期限に合わせて上進できれば、更新講習を受講しなくてよいため、モチベーションが上がるであろう。
- ・上進希望者に対して受講実数は少ない。免許法認定講習はよい取組だと思うが、上進することで教員にメリットはあるのだろうか。給与面の優遇について、国や県の補助があればよい。
- ・平日は県や市が主催する研修と重なることが多いため、土日に開設された方が受講しやすいという意見があるが、休日に受講すると負担もある。受講者の勤務や生活を考えて柔軟に開設できるとよい。子育て世代が受講することを考慮して期日を設定してほしい。

(4) 今後の課題・展望

- ・来年度は、今年度開設科目と併せて必要な単位が満たせるように開設科目を検討する。その際、継続して受講する者も、新たに受講を希望する者も、受講が可能となるようにするため、科目の重なりがないように留意する。併せて、特別支援教育推進室が開設する講習と併せて受講できるように、日程や科目を調整していく。
- ・受講状況から、一種免許状取得には3～5年間必要であると考えられる。また、受講希望者が多いことから、受講機会を拡大できるように、各講習の定員を増やすことを検討する。
- ・今年度は、全ての講習を夏季休業中に実施した。受講者からは「他の研修と重なっている」「連日の受講は体力的にも勤務の状況からも厳しい」という意見があったことから、受講しやすい開催時期を検討する。
- ・上進を希望する教員は多いが、勤務の都合上、希望者全員の受講が叶わないという

幼稚園の現状がある。計画的に受講が進められるよう、上進に必要な単位数や科目、今後の開設予定等について情報提供していく。

- 更新講習と免許法認定講習の違いや、一種免許状取得申請及び免許更新の延期に関する手続き方法等を正しく理解しておらず、二種免許状を失効する恐れのある受講者が見受けられたため、公益財団法人私立幼稚園協会の研修会及び国公立幼稚園・こども園連盟の園長会において、説明の機会を設けた。今後も、機会を捉えて周知することが必要である。